

地域共生社会を目指した法人
の取り組みと地域における
事業所の役割について

地域共生社会 とは

- 高齢者・障害者・子供などすべての人々が、一人ひとりの暮らしと生きがいを、ともに創り、高めあう社会。
- 国は、高齢者を地域で支えるための「**地域包括ケアシステム**」(医療、介護、予防、生活支援サービスを切れ目なく提供し、高齢者の地域生活を支援)の構築を推進している。
- 地域共生社会はこれをより進化させ、**困難を持つあらゆる人を地域で支えるための仕組み**として捉えている。

優輝福祉会を 例にすると・・・

- 障害者の働く場を創出

⇒飲料水の生成や、野菜、米の栽培

- 高齢者の役立ち感を引き出す

⇒栽培した野菜等を福祉施設に提供

- 共生型のサービスを提供する

⇒年齢や障害の有無を問わない施設

高齢者から障害者まで地域に密着した共生型の事業所

優輝福祉社会を 例にすると・・・

- その人の強みを引き出す働き方

⇒ボラバイトの募集

- ニーズを取りこぼさない

⇒相談を断らない

職員全員が相談員

優輝福祉社会を 例にすると・・・

- 誰もが「ほっと」できる空間の提供。

⇒横山旅館

- 年齢や障害の関係なく、その人の希望に添える支援や、地域とかかわりながらお互いを支えあう。

⇒ゆうしゃいん庄原、コージーガーデン

- 労働だけにこだわらず、人を楽しませたり、喜ばすことも「はたらく」と考えた障害者の支援。

⇒ともいきの里

新見市と比較 して改善する ところ

- 高齢者、障害者、子供を取り入れた事業所がない。
(高齢者のみ、など単体で扱う。)
- 高齢者や障害者が働ける場所の確保。
- 地域との交流が少ない。
- 地域おこし以外での地域の活躍が少ない。
- 取り組みの宣伝、PR

まとめ

- 新見市と庄原市は共通点がある。

⇒人口や高齢化率…。

- 新見市の特徴を生かしつつ、高齢者や障害者が地域と関わりあい、支えていく取り組みを行う。